

(共同リリース)

2019年5月27日
日本航空株式会社
マレーシア航空

JALとマレーシア航空、共同事業を目指すことに合意

～日本=マレーシア間のフライトがますます便利になります～

日本航空株式会社(本社:東京都品川区、代表取締役社長:赤坂 祐二、以下「JAL」)とマレーシア航空(本社:マレーシア クアラルンプール、代表取締役社長:Izham Ismail)は、お客さまの利便性とサービス向上を目的とした共同事業実施に向けた覚書を締結しました。

JALとマレーシア航空は、マレーシア航空がワンワールド加盟を決定した2012年より、日本とマレーシア両国間などでのコードシェア提携を開始しました。2019年5月現在、成田=クアラルンプール間においては、JALが週7便、マレーシア航空が週12便を運航しています。また、マレーシア航空は関西=クアラルンプール(週7便)、成田=コタキナバル(週2便)を運航しています。

両社の提携関係をさらに深化させる取り組みである共同事業により、お客さまによりよいサービスの提供が可能となります。加えて両社は、共同事業以外でもお互いの知見を共有し、貨物やその他周辺事業も含めた協力関係の構築を検討し、両国マーケットにおけるツーリズム振興に寄与していきたいと考えています。

両社はすでに、関係当局への独占禁止法の適用除外の申請を行っております。認可後は、日本とマレーシアの間でますます便利にご旅行いただけるよう、2020年までの共同事業の開始を目指します。

JALとマレーシア航空は、今後もお客さまにより多くの選択肢と、より満足のいただけるサービスをご提供出来るよう努めて参ります。



以上